

〔セクションⅠ〕基礎基本の理解度アップ

# 自立活動の指導の基本

～知的障がい～



研修動画は  
こちらをクリック  
又は読み込み

# 1 障がいの捉え方

ICIDH

機能・  
形態障害

能力障害

社会的不利

障がい観

障がいに基づく種々の困難

- ・ 自立活動の指導によって改善し、又は克服することが期待されるのは、主としてディスアビリティ、すなわちインペアメントに基づく日常生活や学習上の困難

障がいの  
捉え方

指導観

ICF

健康状態

心身機能・  
身体構造

活動

参加

環境因子

個人因子

障がいによる学習上又は生活上の困難

- ・ 障がいによる学習上又は生活上の困難を的確に捉える
  - ・ 子供が現在行っていること
  - ・ 指導をすればできること
  - ・ 環境を整えればできること
- など

## 2 自立活動の意義

### 小・中学校 等

- 子供の発達の段階等に即して教育の内容を選定し配列
- それらを順に教育することで、人間として調和のとれた育成が期待

### 特別支援学校 等

- その障がいによって、日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難が生じる
- 心身の発達の段階等を考慮して教育するだけでは不十分

各教科等

系統的・段階的な  
指導

各教科等

個々の障がいによる学習  
上又は生活上の困難を改善・克服するための指導

+

自立活動

人間として調和のとれた育成

### 3 自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって**心身の調和的発達**の基盤を培う。

#### 各教科等において育まれる資質・能力

知識及び技能

思考力、判断力、  
表現力等

学びに向かう力、  
人間性等

#### 支える役割

#### 自立活動の指導

人間としての基本的な行動を遂行  
するために必要な要素

障害による学習上又は生活上の困難  
を改善・克服するために必要な要素

自立活動で基盤を  
培わないと、各教科等の  
資質・能力が  
積み上がらない

「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」文部科学省（平成29年4月）  
「平成29年度徳島県特別支援学校教育課程研究集会『自立活動について』」  
徳島県立総合教育センター

# 4 自立活動の内容

## 自立活動の内容(6区分27項目)

人間としての基本的な行動  
を遂行するために必要な要素

障がいによる学習上又は生  
活上の困難を改善・克服する  
ために必要な要素

- 1 健康の保持
- 2 心理的な安定
- 3 人間関係の形成
- 4 環境の把握
- 5 身体の動き
- 6 コミュニケーション

- 個々の児童生徒の障がいの状態や発達の程度等に応じて選定されるもの
- 自立活動の内容は、個々の児童生徒に設定される具体的な「指導内容」  
の要素

自立活動の内容から必要な項目を選定し、関連付けて  
具体的な指導内容を設定

# 5 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れ

実態把握	①情報収集		
	②-1区分に即して整理	②-2学習上又は生活上の困難等から整理	②-3 ○○年後の姿から整理

課題の整理	③課題の抽出		
	④課題間の関連の整理 中心的な課題の抽出		

指導目標

必要な項目を選定	健康の保持	心理的な安定	身体の動き	環境の把握	コミュニケーション	人間関係の形成
----------	-------	--------	-------	-------	-----------	---------



具体的な指導内容の設定	ア	イ	ウ	...
-------------	---	---	---	-----

「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」文部科学省（平成29年4月）

## 6 知的障がいのある子供の自立活動の必要性

### ○ 知的障がいに随伴するもの

全般的な知的発達<sup>①</sup>の程度や適応行動の状態に比較して、言語、運動、動作、情緒、行動等の特定の分野に、**顕著な発達の遅れ**や特に配慮を必要とする様々な状態が知的障がいに随伴して見られる。

#### <知的障がいに随伴するものの例>

- 言語理解の程度に比較して、表出言語が極めて少ない。
- 全体的な身体機能の発達の程度に比較して、特に平衡感覚が未熟である。
- 心理状態が不安定になり、パニックになりやすい。
- 極めて動きが多く、注意集中が困難である。など

## <知的障がいに伴うものの例>

- 言語理解の程度に比較して、表出言語が極めて少ない。
- 全体的な身体機能の発達に比較して、特に平衡感覚が未熟である。
- 心理状態が不安定になり、パニックになりやすい。
- 極めて動きが多く、注意集中が困難である。など



知的発達の遅れや適応行動  
に応じた各教科等の指導

知的障がい特別支援学校の  
教科（国語、算数等）

**障がいの状態による困難の  
改善等を図るための指導**

**自立活動**

# 7 知的障がいのある生徒の指導事例

高等部第1学年生徒（Gさん）

「学校生活全般で伝える力を高める指導」

## 障がいの状態等

- 学校では、特定の友達や学級担任とコミュニケーションをとることができ、困った時は学級担任に相談することができる。
- その反面、学級担任以外の教員に対しては、困った時に、自分から援助を依頼することができなかったり、どのように伝えたらよいか分からず固まってしまったりすることがある。

令和5年度特別支援教育教育課程改善の手引（北海道教育委員会）令和5年12月

目標

困った時に周囲の人に援助を依頼することができる。

	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	コミュニケーション
自立活動の内容	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

指導内容	① 困った時に、援助を依頼し、課題を解決できたという経験を積み重ね人との関わりに自信を持つ。	② 状況に応じて、伝える相手を判断する。	③ 文例を参考に、困ったことを他者に分かりやすく伝える。
------	--	----------------------	------------------------------

指導内容	② 状況に応じて、伝える相手を判断する。	③ 文例を参考に、困ったことを他者に分かりやすく伝える。
------	----------------------	------------------------------

指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談できる教員が一目で分かるよう視覚的に示し、状況に応じて自分で判断できるようにする。</li> <li>表現方法を示したカードを複数用意し、困りごとに応じて適切に自分の意思を伝えられるようにする。</li> </ul>
------	---

**【取組のポイント】**

- 流れ図を参考に自立活動の目標や内容、指導場面などを整理し、個別の指導計画に明記する。
- 作業学習の単元の指導計画における個別目標の欄に自立活動の目標を記載し、教科等の目標を達成するための手立てを具体的に示し、指導者間で共有する。

生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業中に困ったことがあると、自分から対応可能な教員を判断して相談することができるようになった。</li> <li>困りごとに応じて、カードを参考にしながら具体的に伝えられるようになったことで、作業効率や出来高が向上した。</li> </ul>
-------	--

指導の 評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業学習でできるようになったことを他の指導場面や学校生活全体で活用できるよう、指導者間で評価を共有する。</li> </ul>
--------------	--

# 〔参考資料〕

## 令和5年度特別支援教育教育課程改善の手引

(北海道教育委員会) 令和5年12月



具体的な指導内容の設定による実践・評価・改善

【事例7・知的障がい特別支援学校(職業学科)】各教科等を含めた指導と自立活動の関連

○ 高等部第1学年生徒G 「学校生活全般で伝える力を高める指導」

【実態把握】

【指導すべき課題の整理】

【指導目標】 困ったときに周囲の人に援助を依頼することができる。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること		(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

【具体的な指導内容】

① 困ったときに、援助を依頼し、課題を解決できたという経験を積み重ね、人との関わりに自信をもつ。

② 状況に応じて、伝える相手を判断する。

③ 文例を参考に、困ったことを他者に分かりやすく伝える。

各教科等を含めた指導と自立活動の関連

確化と単元計画との関連

状況に応じて、伝える相手を

③ 文例を参考にしながら、自分の考えを相手に分かりやすく伝える。

【主な指導場面】

日常生活の指導	作業学習	作業学習
<p>●作業学習の単元計画</p> <p>◆単元目標</p> <p>.....</p> <p>◆個人目標</p>	<p>個別の指導計画に、指導場面を記載する欄を設け、中心的な指導場面を明確にします。</p>	<p>単元計画の個人目標に自立活動との関連を明記し、指導者間で共有することにより、指導の充実を図るとともに、授業のねらいの達成や困難さの改善・克服につなげます。</p>

関連

実態	目標	手立て	自立活動の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>細かな作業が丁寧である。</li> <li>分からないことを聞けず手が止まってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分からないことを自分から聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現方法の例を示したカードを用意し、作業場所に置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちや考えを周囲の人に自分から伝えることができる。</li> </ul>

# 演習

演習シート

目標	
----	--

自立活動の 内容				

指導内容		
------	--	--

指導場面		
------	--	--

担当している子供の  
個別の指導計画を基に、  
自立活動の指導内容や  
指導場面などを  
整理してみましょう！